



学びと誇りが実感できるまち ～ICT有効活用の授業展開！～

令和3年2月号

庄原市教育委員会
教育長 牧原 明人

梅咲やせうじに猫の影法師 (小林一茶)

本年も庄原の子供たちが力を発揮した活躍が続いています。

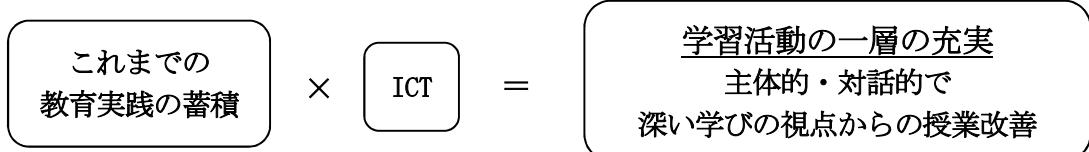
まず、詩や作文：「書く力」のことです。例年正月明けに鈴木三重吉賞の優秀作品の発表がありますが、本年も特選7点、優秀賞15点、佳作67点、合計89点の作品が入賞しました。子供たちは、身の回りをしっかりと見つめ、新たな発見や家族・友人への感謝など、多くの学びを綴っています。これからも感性を磨き自分の言葉で、気持ちや考えを豊かに表現できる力を持つてほしいと思っています。

次に、地域貢献のことです。庄原中学校の生徒たちが、新型コロナウイルス感染症防止のためにご尽力いただいている病院・保健所をはじめ多くの関係者の皆様に、感謝の気持ちを横断幕などに表現して届けています。また、西城小・中学校、西城紫水高校の児童生徒たちが、町内の高齢者宅を訪ねて元気の源となる自作のカレンダーを贈っています。

もう1つ。スキーリング大会のことです。県大会の予選を突破し、全国大会へ出場する選手が4名（西城小1名、庄原中2名、東城中1名）決定していました。しかし、感染症の影響で中学校の全国大会は中止となりました。残念です。

さて、今回は、ICTを有効活用する授業についてです。

私たちの生活は、現在もこれからも、情報通信技術の発展によって、ますますインターネットを活用した機会や場面が多くなってくると考えられます。学校においても、いよいよ来年度から1人1台の端末を整備し、授業などにおいて、これまでよりもICT有効活用の取り組みが始まります。



ICT活用にあたっては、各教科等で育成すべき資質・能力を見据えた上で、どのような学習形態（一斉学習・個別学習・協働学習など）で、どのような活用法が児童生徒の学びにとって効果的であるか考え、「いつ、どこで、誰が、何のために、何をどのように活用するのか」など、明確にしていくことが大切です。

ICT活用による授業づくりの工夫を重ねることによって、情報活用能力が高まるとともに、子供たちが興味・関心を持ったことをはじめ、課題発見をしたことや学びたい学習内容などを、多くの情報の中から調べ、考え、まとめること、他者との考え方や表現内容を比較・検討すること、振り返りの中から解決策を見出し次のステップへ進むことなど、学習内容・活動の広がりや深まりが期待できます。